



2026年3月9日

各 位

会社名 株式会社 Ridge-i
代表者 代表取締役 柳原 尚史
(コード番号 5572 東証グロース)
問合せ先 取締役管理部長 中井 努
(TEL 03-4214-8558)

2026年7月期第2四半期(中間期)連結業績予想の修正に関するお知らせ

2025年9月12日に公表した2026年7月期第2四半期(中間期)連結業績予想(2025年8月1日~2026年1月31日)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2026年7月期第2四半期(中間期)連結業績予想の修正
(2025年8月1日~2026年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,260	120	120	70	17.90
今回発表予想 (B)	1,150	170	168	105	25.12
増減額 (B-A)	△110	50	48	35	
増減率 (%)	△8.7	41.7	40.0	50.0	
(ご参考) 前年同期実績 (2025年7月期第2四半期)	1,407	200	202	99	25.76

2. 修正の理由

当社の業績予想は、既に契約済みの案件については案件毎に積み上げ、協議及び交渉中の案件については営業の進捗状況やパートナー企業の計画及びコンサルティングファームが当社の前工程を実施している場合はその案件進捗状況を考慮したうえで案件毎に積み上げ、その他の新規顧客については前期の実績値に対して過去の実績に基づく増加率を考慮して見込みを行っております。

直近、AI活用コンサルティング・AI開発サービスにおいて、生成AI関連のコンサルティングや開発需要増加にともない大手の既存顧客からの継続受注や案件大型化の進捗及び資本業務提携を行ったSBIホールディングス株式会社とのプロジェクトの開始などにより、案件の期間が比較的長めでかつ大型である割合が多くなっています。このような案件の大型化や長期化により粗利率の向上や社員の稼働率の上昇、さらに既存顧客や提携先からの案件が多いことによる新規営業コストの低下などの影響で、カスタムAIソリューション事業の粗利率が想定以上に向上したため営業利益が期初計画より大幅に増加する見込

みです。なお、売上高についてはデジタルマーケティング事業において受注回復に時間を要しており期初計画より減少する見込みです。

以上のことから2026年7月期第2四半期(中間期)の営業利益は期初計画から41.7%増と大幅な増益となる見通しとなりました。また、経常利益及び当期純利益についても同様に期初計画から増益となる見通しとなりました。

今後の取り組みとして、引き続き生成AI関連プロジェクトの獲得や人工衛星データ関連事業の拡大など魅力的なサービスの提供を加速することで、引き続き業績向上に努めてまいります。

※ 上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績については、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上